

# ある日の幼稚園だより

「おかあさん、子どもたちが

こんなことを言っていました。」



鈴 木 正 子

御家庭の皆様お元気ですか。

今日は私のメモの中から「幼児のことば」のいくつかを御紹介致しますよう。

これは子ども達の生活の中から主に幼児の「感動」を表わしたことをひろったものです。

ことばを通して子どもたちの身近な自然へのおどろき、また先生・友達・生きものなどへの親しみのころ、また幼いながらに一生懸命考えたことなど、その時々の子どもの心のうごきを、おわかりいただけたら、うれしいと思います。子どもたちは絵やリズムなどによってそうであるようにことばによっても自分の心を表わそうと一生懸命になっています。

その鋭敏な感受性により感じとったものを、自由な率直な表現力をもってあらわそうと、真剣です。

そういう意味で幼児はたくまざる詩人とも言えますよう。

私は子どもたちのこうしたことばにふれるたびにいつまでもいまでもこの豊かな感性と表現力を失うことなく成長していつてくれたらという願いで一ぱいになります。

その人生が、どんなに豊かな、うるおい深いものになるだろうかと思ふのです。

私たちおとなは幼児たちの声に耳をかたむけ、よい聞き手に、また良い話し相手になってあげましょう。

そして子ども達のもっているこんなすばらしい芽を枯らすことなく育てていこうではありませんか。

また、この間お手元におとどけた「幼児のことばから生れたうた」もそのような意図から誕生したものです。

お家の皆様も、そんな願いをこめながらお子さんとご一しよにうたってくださいれば幸甚です。

○

きれいだなあ

お花がさいた

かきのお花―

これは雨の日に傘をさして帰るたくさんのお友達のをみてMちゃんのさけんだことばです。

雨の中に色とりどりに咲いてうごく傘の花はおとなの私が見てもほんとうにきれいでした。

けむりかじ

もくもくもく

えんとつのけむりかじ

工場のえんとつの煙をみてSちゃんの言ったことばです。

太陽は海へしずむのか

山へ沈むのか

どっちなの

山へ沈めば火事になってしまおうね

だから海だとおもうんだ

ぼくは。

これはある朝のことです。

さっきから二、三人で言い合っていたらしく、Cちゃんが勢込んで私の所へやって来ました。あとからAもBも、ちょっと困った私は何と言ったらよいのかと一しゅんためました。が、ボールをもつて来て、地球と太陽の関係をやさしく話してみました。しんけん

な顔をして聞いています。

「いまに大きくなって学校にゆくと先生が、太陽のことなど、たくさん教えてくださるの、いいでしょう」と結ぶと遠い夢をみるような顔をしてうなずきました。

―幼い心は未知の世界への探究で

いつもいっぱいになっているのです。

浦島さんは

おばかだよねえ

乙姫様の言うこと

聞かなかったから

おじいさんになっちゃったね

僕なら玉手箱開けないんだがな

浦島太郎のおはなしを聞いたあとMちゃんがこんなことを言いました。他の子ども達の中にもだいたいふ同感の顔がありました。

あか

あお

きいろ

きれいな石よ

みんなで行こう

ひろいに行こう

タララタン タラ ララ

ラン ラン ラン

山名旅行の前日、かぶら川の石拾いを想像しながら、みんなで歌う、節は「きれいな魚」をまねて。子どもたちは生まれながらの即興詩人ですね。

○いろいろな虫をみて

おかいこつて どうしてこんなに

すべっこいのかな

そいで こんにやくみたいに

やわらかいのかな

○

かいこ かいこ

はっぱをまるく

たべている

○

あおむし

「あ」がつくから

飴のおいがする

○

かまきりの子はおもしろい

くぎに足がついたようね

○

あんなきたない虫だったのに

きれいな蝶になったねえ

すこいねえ

○

よかったね

うまれたんね

よかったね ちょう ちょう

子ども達は虫がすきです。そこで虫への関心を示していることばだけを一しょにしてみました。おかいこ、青虫、かまきり、蝶、それぞれの子の虫の特徴をみじかいことばの中に表わしてはおもしろいですね。これも子どもでなくては出来ない表現だとおもいます。

○

やぎさん

もうつのが出てる

花のケーキたべたから

こんなにふとったんね

○

はさみだよ

うさぎの耳

おかあさんと

かさなつてたべてる

○

うわー

おっかない(こわい)

このとり、ふくれてる

○

また弱ってる雀が来たら

この箱で休ませてやろうね

水もやって

たべものもやって

休めば とんで 行けるもの

○

みんなでパン残してやる

まってるよ

あの犬が。 ね、ね、

これは幼稚園にいる小さな動物、またある日、ふと迷いこんで来た鳥や犬に対しての子ども達のことばです。

幼児達をとりまく小さな生きものへの真剣な想いやりの心がしみてじみと迫ってきます。

○

ひとつぶたれたら

ふたつぶちかえせて

○ちゃんが言ったけど

ほんと。

ある朝K君のたいへんむずかしい質問に、おどろかされました。こういうことを一体みんなはどう考えているのかなと思って私は、それとなくみんなに聞いてみることにしました。

「あたしはぶたれたらぶち返さないで逃げる。」

「あたしは先生に言う。」

「僕はいけないよと言ってやる。」

「そういう意地悪をする人とはだれも遊ばないようにすればいいよ。」

子どもたちはこんなことを口々に言っていましたがおしまいに

「やっぱりぶつ子はだめだな。」

「みんなで仲良くしなくちゃだめだな。」

と言いました。勿論K君も。

「本当にそうね。」と同感しながら、幼い幼いと思っていた子ども達ももうこんな批判力を持つようになったことに私の心はおどろきで一ぱいにさせられました。

それにしてもK君が、ひとの言ったことを聞きのがさず幼い心でよく考え私に話してくれたのは、本当にうれしく、たのもしかったです。だとおもいました。

○

ぼぶらあ

ぼぶらあ

はっぱあ

はっぱあ

鳩みたい

○

すずかけが

あ、

おちて来る

ちようちようみたい

あ、

きんがおちてくる

これは風に散る落葉のようすを見ながら、子どもたちがおもわず

呼んだことばです。  
 子どもの表現はほんとうに自由ですね。

紙数もつきてきましたので今日はこの辺で筆をおきましょう。これは幸にして私の耳にとらえ得た子ども達のことばですが、小さなつぶやきであったために、また私が忙しかつたために、また私の知らない場所であったために、聞くことの出来なかつたことばもま

たどんなにかたくさんあつたことばでしょう。  
 これからもなるべく、たくさんのことばを記録してみたいと思つておりますが、お家の皆様方、とくにお子さんと接する時間の多いお母様が書きとめておかれたらいろいろな意味でももしろいのではないかと、おすすめていたします。  
 お子さん方のすばらしいことばのかずかずを見せていただける日を、たのしみにしております。

## まっすぐ

こどものことばから  
 茂木五郎 作曲



## うまれたんね

こどものことばから  
 茂木五郎 作曲



## あかぎやま

こどものことばから  
 茂木五郎 作曲

